様　式　C－１９、F－１９－１、Z－１９　(共通)

科研費
KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １２ 日現在

機関番号：３２５１１
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１３０８０

研究課題名（和文）日本留学経験が現在の職務に与える影響

研究課題名（英文）Impact of Study Abroad Experience in Japan on Current Job

研究代表者
黄　美蘭（HUANG, MEILAN）

帝京平成大学・人文社会学部・講師

研究者番号：３０７４７１２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本で大学や大学院などの高等教育機関を卒業・修了し、日本や中国で企業に勤めている中国人元留学生社員を対象に、日本留学経験が現在の職務に与える影響について調査した。研究期間中に、中国人元留学生社員を対象に半構造化インタビューと質問紙調査を実施した。その結果について、異文化間教育学会、日本コミュニティ心理学会、留学生教育学会、韓国日本学会等において発表を行なった。また、国内外の雑誌に学術論文を投稿した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では現在の職務に肯定的な影響を与えると捉えている日本留学経験の内容について詳細に分析した。また、日本で就職する理由や現在の職務に活かしている留学経験が仕事に対する満足度に与える影響について明らかにした。本研究の結果は、日本の高等教育機関における留学生教育や留学生のキャリア教育、キャリア支援のための重要な参考資料となると考える。
日中の職場において、元留学生社員は日本留学経験を通して得た知識や身につけたスキルをどのように活用しているのか、元留学生社員が日本留学経験を最大限に活かせる職場環境はどのようなものなのか、本研究はその答えの一部を明らかにしていると言える。

研究成果の概要（英文）：This study investigated the impact of the experience of studying in Japan on current job performance among former Chinese international student employees who graduated or completed higher education institutions such as universities and graduate schools in Japan and are now working for companies in Japan.
Semi-structured interviews and questionnaires were conducted with Chinese former international students during the study period. The results were presented at the Intercultural Education Society of Japan, the Japanese Association of Community Psychology, the Japan Society for the Education of International Students, and the Korean Association of Japanese Studies, among others. In addition, academic papers were submitted to domestic and international journals and were accepted.

研究分野：異文化間教育、日本語教育

キーワード：日本留学経験　中国人元留学生社員　労働に関する価値観　仕事満足度　高度人材

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

中国教育部（2018）の統計によると、2018 年に中国から海外に留学した人数は 66 万 2100 名で、2017 年に比べると 8.8%増加し、海外で留学を終え中国に帰国した人数は 51 万 9400 名で、前年に比べて同様に 8.0%増加した。2000 年代に「頭脳流出」を懸念する中国政府により、帰国奨励政策が実施され、また、近年の中国の経済成長もあり、海外で留学を終え帰国する留学経験者が増加したと考えられる。中国で留学生の帰国ブームが始まった頃には、高度な専門知識を持つ留学経験者は、帰国後に起業して成功した人や企業等で驚異的な速さで昇進する人が多かった（慧博研究所，2007；王，2009）。しかし、留学経験者の急増や中国国内での博士号取得者が急速に増加したことにより、企業等の雇用者が要求する水準も高くなり、海外での就業経験やスキルを求めるようになった（阿部・徐，2011）。

一方、2016 年に日本国内の高等教育機関を卒業・修了した留学生のうち、日本での就労が許可された者の数は 2 万 2419 名と過去最高水準となっており、前年と比べて 15.4%増加しており、そのうち、中国人が最も多く全体の 46.1%を占めている（法務省入国管理局，2018）。日本の大学や大学院、専門学校などの高等教育機関を卒業・修了し、日本の企業に就職した元留学生という「高度外国人材」は増加傾向にある。

これまでに、日本で留学を終え中国に帰国した中国人帰国留学生を対象に、日本留学の効果を検証した先行研究に、遠藤・王（1998）、奥川・梶川（1999）、奈倉（2009）、阿部・徐（2011）がある。遠藤・王（1998）は、日本に留学した後、中国に帰って就職した帰国留学生 539 名を対象に、日本留学の効果について調査を行い、全体として日本留学効果が高く、留学に対する自己評価も肯定的であることを明らかにしている。奥川・梶川（1999）は、日本で学業を終えた後、帰国して就職した中国人帰国留学生 383 名を対象に、帰国後の日本留学評価に関して調査を行った。そこでは、留学形態の異なる、国費留学生（20.2%）、中国政府派遣留学生（58.7%）、私費留学生（21.0%）の 3 群に分け、日本留学の効果について自己評価を行い、留学形態による相違は見られなかったとしている。これらの研究は、中国人帰国留学生を対象に行った大規模な調査であり、その結果は中国人帰国留学生が日本留学をどのように評価しているのかについて明らかにした貴重なデータであると言えよう。しかし、遠藤・王（1998）、奥川・梶川（1999）の研究は、対象者のほとんどが国費留学生、または中国政府派遣留学生であり、公費の留学生の場合、在学中も経済的に安定した条件で研究・学習を行うことができる上に、帰国後も大学や研究機関、国家機関等に就職が可能であるため留学への満足度が高いと考えられる。

これに対して、私費留学生を含めた近年の日本留学経験者を対象にした奈倉（2009）は、文系の中国人帰国留学生が中国の高等教育機関に就職した後の状況について調査を行なった。そこでは、文系の帰国留学生が高等教育機関に就職した場合、中国の学界の主流に入れず、周縁的な位置に置かれることが多いとしている。また、阿部・徐（2011）は日本で大学院を修了し、中国に帰国して大学教員として就職した 22 名に対して聞き取り調査を実施し、対象者は日本留学で得られた知識や経験のうち、「日本語能力、日本社会への理解力」「日本で学んだ学術的知識」「日本での就業経験」の 3 つの側面を肯定的に評価しているとしている。

しかし、これらの研究対象者のほとんどは、帰国後中国の大学に勤務している大学教員であり、中国で企業等に勤めている中国人帰国留学生を対象とした先行研究は僅少である。また、日本留学経験に対して自己評価を行っているが、現在従事している職務に、日本で学んだ知識や日本社会における経験が実際にどのような影響を与えているのかについては検討が行われていない。特に、2000 年代以降に帰国した中国人帰国留学生は、中国で日本企業等に就職する割合が増えている。また、英語圏の国からの帰国留学生ならびに中国国内の卒業生と競争しなければならない立場に置かれている。日本からの帰国留学生は日本留学経験が現在の職務にどのような影響を与えると捉えているのかについて検討することは、日本留学の意味を再考し、将来のキャリア選択・形成のための貴重な参考資料となり得ると考える。

また、日本で留学を終え、日本国内で企業等に勤めている元留学生を対象に、多文化就労場面においてどのような葛藤を抱えており、それらに対してどのような解決方略を用いているのかについて検討した先行研究は数多い（岡村・文・加賀美，2016；小松・黄・加賀美，2017；守谷・池田・和田・加賀美，2017 など）。しかし、日本留学で学んだ知識やスキル、日本社会における活動などの日本留学経験が、現在の職務にどのような影響を与えているのか、その実態を明らかにした先行研究は管見の限り見当たらない。

２．研究の目的

本研究は、日本で留学を終え中国に帰国して企業等に就職した中国人帰国留学生と日本で企業等に就職した中国人元留学生を対象に、日本の大学や大学院で学んだ知識やスキル、アルバイト活動、インターンシップ活動などの日本社会における経験が現在の職務にどのような影響を及ぼしているのかについて検討し、日本留学経験が中国と日本の職場の職務に与える影響を比較検討することを目的とする。

３．研究の方法
本研究では、まず、日本で企業等に勤務している中国人元留学生を対象に、半構造化インタビュー（中国語）を行い、大学や大学院で学んだ知識やアルバイト活動などの社会経験が現在従事している職務にどのような影響を与えているのかについて解明する。次に、日本で留学を終え中国に帰国して企業等に就職した中国人帰国留学生を対象に、半構造化インタビュー（中国語）を行い、日本留学の経験が現在の職務に与える影響について検討する。最後に、1年目と2年目の研究結果を元に質問紙を作成し、日本で企業等に勤務する中国人元留学生と中国に帰国して企業等に勤務する帰国留学生を対象に、中国語による質問紙調査を行う。質問紙調査では、日本留学経験が現在の職場の職務に与える影響について検討し、日本留学の経験が中国と日本の職場の職務に与える影響の差異を明らかにする。

４．研究成果
（1）日本留学経験が現在の職務に与える影響―日本で企業に就職した中国人元留学生社員の場合―
本研究では、日本で留学を終え、現在、日本の企業に勤めている中国人元留学生社員を対象に、日本留学経験が現在の職務に与える影響について調査した。
調査の結果、中国人元留学生社員は、日本の大学や大学院で学んだ「学術面における知識・スキル」「日本社会・日本人に関する知識」「コミュニケーションスキル」が現在の職務に役に立つと捉えていることがわかった。また、アルバイト活動を通して得た「日本社会・日本人に関する知識」「仕事に対する態度」「コミュニケーション能力」が現在の職務に肯定的な影響を及ぼすと捉えている様子が見られた。

（2）中国人元留学生の就職活動―中国で就職した場合―
本研究では、日本で留学を終え中国で企業に勤めている中国人元留学生を対象に、1）就職先を中国に決めた際の自己分析、2）中国で就職活動を行う際に、大学側に求める支援、3）現在の職務に役に立つと思う、大学時代に学ぶべき知識と身につけるべきスキルについて明らかにした。
その結果、中国人元留学生は、日中の職場環境の相違点や家族のこと、将来の発展性などを総合的に考え、就職先を中国に決めていることがわかった。また、日本で学業を続けながら中国で就職活動を行うことは難しいと考えられ、特に、中国における就職に関連する情報の提供や、各企業が直接日本の大学に訪れ中国現地採用を実施することを望んでいることがわかった。さらに、中国の日系企業に勤めている場合、日本の各種資格があることで会社内での評価や給与のアップにつながると認識していることがわかった。

（3）中国人元留学生社員の日本留学経験の活用と仕事満足度―日本国内の日本企業に就職した場合―
本研究では、日本で大学や大学院、専門学校などの高等教育機関を卒業・修了し、日本で企業に勤めている中国人元留学生社員を対象に、日本で就職した理由と職場における日本留学経験の活用、および仕事に対する満足度について調査を行った。オンラインによる質問紙調査を実施し、中国人元留学生社員97名のデータに対して統計的手法を用いて分析した。日本で就職した理由と日本留学経験の活用に関しては因子分析を行い、仕事に対する満足度に関しては、各項目の平均値と標準偏差を算出した。
その結果、中国人元留学生社員が日本で就職した理由として『知識・スキルの活用』『日本の生活への慣れ』『安定した生活』が得られた。また、現在の職務に活かしている日本留学経験として『日本人との交流方法』『専門知識』『論理的な思考・分析方法』『日本人の仕事に対する態度』が得られた。さらに、仕事に対する満足度に関しては、仕事内容、職場環境、職場の人間関係に対する満足度が概ね高く、仕事に対する総合満足度も高いことが浮き彫りになった。日本で就職した理由と日本留学経験の活用が仕事満足度に与える影響については、日本留学経験を得た『専門知識』と『日本人の仕事に対する態度』を現在の職務に活かしていると捉える場合、仕事に対する満足度が高いことが示された。また、「日本語能力」が高い場合、仕事に対する満足度が高く、「困った時に、相談できる相手」がいる場合はいない場合より、仕事に対する満足度が高いことが浮き彫りになった。

（4）日本留学経験が現在の職務に与える影響―中国で企業に就職した場合―
本研究では、日本で大学や大学院を卒業・修了し、中国で企業に就職している中国人元留学生を対象に、日本の大学や大学院で学んだ知識や日本人との交流を通して得た知識・スキルが現在従事している職務にどのような影響を与えているのかについて明らかにした。
その結果、中国人元留学生社員が現在の職務に影響を与えていると捉えている、大学で学んだ知識やスキルとして、「日本人の仕事態度」「言語」「日本人への理解」「日本文化への理解」「自己成長」「専門知識」「ネットワーク」が見られた。

（５）日本企業における日本留学経験の活用と労働価値観

本研究では、中国人元留学生社員を対象に、日本で就職した理由、労働に対する価値観、現在の職務に活かしている留学経験を通して学んだ知識と身につけたスキルについて調査した。

その結果、中国人元留学生社員は、日本の生活に慣れており、留学経験で身につけたスキルを日本の職場に活かしたいと思い、日本で就職することが多いことがわかった。また、働く上で自分自身の成長を重視し、経済的報酬を重視しない場合、日本留学経験を現在の職務に活かしていると捉えやすいことがわかった。日本の職場において元留学生社員が留学経験の活用や自己の成長ができるような環境づくりが重要であることが浮き彫りになった。

＜学術論文＞

1) 黄美蘭（2022）「日本留学経験が現在の職務に与える影響―日本で企業に就職した中国人元留学生社員の場合―」『お茶の水女子大学人文科学研究』第 18 巻, pp.27-39
2) 黄美蘭（2023）「中国人元留学生の就職活動―中国で就職した場合―（研究ノート）」『東アジア日本学研究』第 9 号, pp.143-151
3) 黄美蘭（2024）「中国人元留学生社員の日本留学経験の活用と仕事満足度―日本国内の日本企業に就職した場合―」『日本學報』第 139 輯（韓国研究財団登載誌）, pp.121-136

＜学会発表等＞

1) 黄美蘭（2021.6）「留学経験が現在の職務に与える影響―大学院を修了し日本で就職した中国人元留学生の場合―」『異文化間教育学会第 42 回大会』玉川大学（オンライン開催）
2) 黄美蘭（2021.8）「中国人留学生の就職活動について―日本で企業に就職した場合―」『留学生教育学会第 26 回年次大会』東京外国語大学（オンライン開催）
3) 黄美蘭（2022.8）「日本留学経験が現在の職務に与える影響―中国で企業に就職した場合―」『留学生教育学会第 27 回年次大会』立命館アジア太平洋大学
4) 黄美蘭（2022.9）「中国人留学生の就職活動について―中国で企業に就職した場合―」『第四回東アジア日本学研究学会国際シンポジウム』日本大学（オンライン開催）
5) 黄美蘭（2023.6）「日本の職場で抱える葛藤と留学経験の活用―中国人元留学生社員の場合―」『異文化間教育学会第 44 回大会』東京都立大学
6) 黄美蘭（2023.12）「日本企業における日本留学経験の活用と労働価値観」『日本コミュニティ心理学会第 26 回大会』香川大学
7) 黄美蘭（2024.2）「中国人元留学生社員の日本留学経験の活用と仕事満足度―日本国内の日本企業に就職した場合―」『韓国日本学会第 107 回国際学術大会』KYUNG HEE University, KOREA

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 黄美蘭	４．巻 139
２．論文標題 中国人元留学生社員の日本留学経験の活用と仕事満足度－日本国内の日本企業に就職した場合－	５．発行年 2024年
３．雑誌名 日本學報	６．最初と最後の頁 121-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15532/kaja.2024.05.139.121	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 黄美蘭	４．巻 9
２．論文標題 中国人元留学生の就職活動－中国で就職した場合－	５．発行年 2023年
３．雑誌名 東アジア日本学研究	６．最初と最後の頁 143-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 黄美蘭	４．巻 56
２．論文標題 新型コロナウイルス感染症による大学生活における不安と抑うつ―中国人留学生の場合―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 異文化間教育	６．最初と最後の頁 60-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 黄美蘭	４．巻 18
２．論文標題 日本留学経験が現在の職務に与える影響－日本で企業に就職した中国人元留学生社員の場合－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 お茶の水女子大学人文科学研究	６．最初と最後の頁 27-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 黄美蘭	４．巻 41
２．論文標題 アルバイトの経験とキャリア意思決定および将来のキャリア志向―大学・大学院に在籍する中国人私費留学生を対象に―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本語研究	６．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

１．著者名 黄美蘭	４．巻 17
２．論文標題 アルバイトの目的とアルバイトの肯定感及び将来のキャリア意識 ―中国人日本語学校生と大学・大学院生の場合―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 お茶の水女子大学人文科学研究	６．最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　1件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 黄美蘭
２．発表標題 中国人元留学生社員の日本留学経験の活用と仕事満足度―日本国内の日本企業に就職した場合―
３．学会等名 韓国日本学会第107回国際学術大会（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 黄美蘭
２．発表標題 日本企業における日本留学経験の活用と労働価値観
３．学会等名 日本コミュニティ心理学会第26回大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 黄美蘭
２．発表標題 日本の職場で抱える葛藤と留学経験の活用―中国人元留学生社員の場合―
３．学会等名 異文化間教育学会第44回大会（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 黄美蘭
２．発表標題 日本留学経験が現在の職務に与える影響 ―中国で企業に就職した場合―
３．学会等名 留学生教育学会第27回年次大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 黄美蘭
２．発表標題 中国人留学生の就職活動について―中国で企業に就職した場合―
３．学会等名 第四回東アジア日本学研究学会国際シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 黄美蘭
２．発表標題 アルバイトの経験とキャリア意思決定および将来のキャリア志向―日本語学校に在籍する中国人私費留学生を対象に―
３．学会等名 第三回東アジア日本学研究国際シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 黄美蘭
２．発表標題 中国人留学生の就職活動について
３．学会等名 留学生教育学会第26回年次大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 黄美蘭
２．発表標題 留学経験が現在の職務に与える影響―大学院を修了し日本で就職した中国人元留学生の場合―
３．学会等名 異文化間教育学会第42回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 黄美蘭
２．発表標題 アルバイトの経験とキャリア意思決定および将来のキャリア意識 ―大学・大学院に在籍する中国人私費留学生を対象に―
３．学会等名 異文化間教育学会第41回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 黄美蘭
２．発表標題 日本留学経験が現在の職務に与える影響 ―大学院を修了し日本で就職した中国人元留学生の場合―
３．学会等名 異文化間教育学会第42回大会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

researchmap https://researchmap.jp/huang522

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関